

第 220 回 昭和の森自然観察会

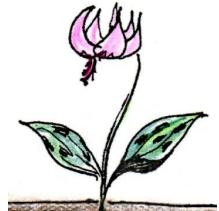
カタクリの里 秘められた歴史

井上智史(千葉市)

日 時： 2010 年 4 月 11 日(日)13~15 時 天気： 晴

参加者： 33 名 (大人 30 名 子供 3 名) 指導員 21 名

担当指導員： 奥村 昭 佐藤一枝 井上智史



20 度を越す暖かい日となった。前週に続き、桜もほぼ満開。スミレもずいぶんと増えた気がする。一方でカタクリの花は見ごろを少し過ぎてしまっていた。そんな春の日。

昭和の森には、自生のカタクリの他に、移植されたカタクリがある。どこから移植されたかと言うと、同じ昭和の森の中。なぜ移植されたかというと、カタクリの群生地に雨水調整池が設置されることになったから。それは 2002 年のことだった。なぜ移植されたのか、どうやって移植されたのかを、佐藤さんの説明と奥村さんのパフォーマンスで示すことで観察会スタート。

“カタクリ気分”が盛り上がったのだけれど、私の班はコースが逆周り。カタクリは最後になります、と参加者の皆さんに話しておいて出発。この季節、見るものはいろいろとある。といつてもやはり(?) “花” に注意がいっててしまう。それでも意表をついて(?)、樹木の花に着目した。イヌシデ、サワラ、カエデ、サクラ、キブシ、モミジイチゴ、アケビ、クロモジ、コナラなどなど。人気があったのはカエデの花。紅葉でよく知っている木なのだけれど、花を見たことがないから。そして、その花がかわいいから。ルーペで見ると本当にきれい。みんなでじっくり観察した。

サワラは花を見るとともに、葉の裏側の白い気孔帯を観察。どんな形か?それを憶えておいて、ヒノキ、アスナロも同じように観察。3 つの違いがはっきりとしていて面白かったようだ。もちろん、木の花だけじゃない。タチツボスミレ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、ツルカノコソウ、マルバスミレ、ウラシマソウ、タガラシ、イカリソウ、ヒトリシズカ、などなど。そしてカタクリ。

コース後半となった移植地で、カタクリについて一通り説明。どんな植物か、どんなところに生育するか、など。か弱そうな一年目の葉も実物を紹介。その後、移植の原因となった調整池を眺めた。控えめに水の溜まった調整池を目にすると、コレのために…、という気になる。私には、この調整池をココにつくる必要がどの程度あったのかわからない。また、カタクリを移植する必要がどの程度あったのかもわからない。どちらも人間の決めたことであり、“自然保護” ということを考えるのによい場所だと思う。

最後に参加者からコメントをいただいた。

普段見ているつもりのものでも説明してもらいながら見るとまた違って見える。

全く意識していなかった樹木の花が見られてよかったです。

調整池とカタクリ移植の話が印象的だったなど。

一ヶ月に一度良いので同じところを歩いてみると

変化が見られて面白いですよ。という話をして終わりにした。

今回の参加者の中に、先月に続き同じ班となった方がいた(2 人)繰り返し来て頂けるのは、内容がよいものだったからだろうから、素直に嬉しい。そして、今回も指導員の方々にいろいろと助けていただきました。ありがとうございました。

しまった、片栗粉の話をするのを忘れていた。

